

第5回学校2学期制検討委員会

日時：H23年8月30日（火）15時より

場所：市役所7階大会議室

欠席者：二宮委員、佐藤委員

進行：上野代委員長

1 議題

（委員長）議事を進行します。今日はどこまで詰められるかそして、これからの検討委員会に向けての落としどころを皆さんと協議していきたい。評価評定の各校の実態について、報告を事務局よりお願いします。

（事務局）各校の評価評定、面談の実施状況について、教育指導課で調べてまとめた資料を準備しました。3年生については、夏休み前に評価評定をし、面談を実施。前期末に評価・評定を出している。進路の時期になると、評価評定を出しつつ面談。後期末に評価・評定を実施している。11校ともこのスタイルである。

・1, 2年生は学校によって対応が若干異なっている。詳しくは別紙まとめ参照。5校と4校と1校、1校と言った形で対応している。しかしながら、夏休み前、年末、学期末前に何らかの対応をしていることは共通である。

（委員長）3年生に至ってはすべては同じ対応をしている。前回、小学校においては、おおむね2学期制のままていく方向で考えてきましたが、検討の議事について小学校が網羅されていないが、ご意見を伺う中で小学校のご意見も織り交ぜた形で集約していきたい。中学校についてどうかと念頭課題にあるが、小学校についてもご意見をください。それでは、各団体からご意見をいただきます。

（小林）中学校校長会として2学期制についてどう対応していくかについて。前回の検討会を受け、校長会では（1市3町。箱根真鶴は3学期制、小田原湯河原は2学期制。）昨年度末までに、すでに2学期制でいくという結論が出ている。概ね2学期制という意見が多く、引き継いでいる。職員の中からはアンケートの47%という意見も出されているが、校長会では2学期制でという判断。成績についても先ほど確認したように、問題ないとしている。入試選抜については、1回になると新聞報道で出されている。教師にとっては、現在の通りいくべきである。

（小松）教頭会に状況を話し、教頭会は3学期制の賛成者が多いが、学校運営上は、このまま2学期制でいくことがベストであると考えている。教職員にとっては、教員の声は、時期的に色々なことを出すことで、成績を出す負担感についてが多い。7月、9月にいろいろなことが重なる多忙感があるので、色々なやり方を探ることも今後も一つかと考える。教務からは、2学期制が定着しているので、そのまま。3学期制にするならば、早くから伝えてもらいたい。学校運営上問題になる。また、2学期制の本来の趣旨から言えば、夏休み前に成績を出すということが、本来ならばやらないでもいいのかと思う。

（島津）7月1日教頭会に行われた。昨年度のアンケートなどの経過も説明した。この会が、3学期制に戻す会と思っている職員もおり、「いつから3学期制に戻っちゃうの」という声も聞くので趣旨理解が必要。5年を経過したのでといった検討委員会の趣旨を説明した後、教頭の意見では全員2学期制。3学期制に戻るとしても来年からといった早急なことでは困るといった意見でまとまった。評価、評定については、前期・後期でだしている。夏休み前については、観点別の成績を出しているところも以前はあったようだが、大体3者面談が主に行っている。職員の様子も、子どもに接する時間を増やしたいということで、2学期制に賛成が多い。それでも授業時数は増えているので、それ以外に子どもと接する時間が欲しいという声がある。2学期制を続けてほしいという意見でまとまった。

（杉山）7月20日に調査部会を開催した。評価・成績について、中学校3年生については、ほぼ一致していることが確認できた。中学校1, 2年生も形は違うが、学校や教員の努力で、数字こそ出ていないところもあるが、それぞれで保護者に伝えられるよう工夫されていることがわかった。調査部会はアンケートの結果をしっかりと

尊重した上で、話し合いを進めていくべきであることを確認した。成績については、色々なことで学校で不安もあり、わからないこともあるが、前提として、小・中でそろえたほうがいいのか、異なってもいいのかについては、小田原では揃ったほうがよいとまとまっている。成績に関しては、3年生がきちっと押さえられているならば、1、2年生はより保護者にわかるような形で、各校独立性も必要ではないか、特色をだしていくべきではないか、といった意見や、統一した方がいいのではないかといった意見もあった。7月夏休み前の評価については必要なのか、必要でないのか意見があり、夏休み前の評価の必要性については、いろいろな意見があった。多くの学校では、コメント（口頭）で、保護者に伝えているということが確認できた。数値でだすかどうかはまだ検討の余地があるのではないかと。3学期制で行うことは、時数のやりくりや時間的な制約、教務の大変さなど難しいところも出てくるであろうといったことや、近隣の町から聞いても、3学期制では時数のやりくり、時間的な制約等、大変になってきているとのこと。結論からしてみると小田原の小中学校では、統一して2学期制がよからうと話がまとまった。

（事務局）近隣の状況については、聞き取りの結果、箱根と真鶴では3学期制を行っているが、特に今年から新学習指導要領全面実施ということで、時数の確保に向けてどのような対応をされているのか。箱根は夏休みのサマースクールを授業時数としてカウントする。また、プールの授業を夏休みにあて、体育にカウントする。さらに、夏休み末に、体験行事を全員出席にして授業としてカウントしていくなどの工夫をしている。真鶴は、時数は余裕があるが、7時間目を設定。7時間目の授業は、クラブや委員会として実施している。下校時刻を遅くならないようにするため、途中の休み時間を短くしている。10分遅れぐらいで下校できる。また、15分の帯をとって、15分×3で一単位として時数計上する。中学校は、余裕はなくなっているが、なんとか入るかな、会議への影響もほとんどない。

（杉山）保護者との面談が多くなっているのが長所である。教職員の研修が確保できている。短所は、保護者への説明がまだまだ足りないことについて反省しなければならないのではないかと。それが課題。

（守屋）西教組では各校へ調査をかけた。2学期制で困っていること、成績の部分についてすべての学校ではないが、回答ももらっている。中学校では、成績が返って大変で、子どもとの時間が減っているのではないかと、仕事が増えたと感じている。神奈川の入試制度とあっていない。部活の大会前が特に忙しい。成績については3学期制と同じように出している。進路にあわせて出している。保護者の面談時に話をしているのは、効果的であると感じている。評価評定や所見を出している学校は様々である。小学校は、時数の確保では効果があった。これまで成績処理に追われていた7月、12月にも校内研ができたり、教材研究の時間が取れたりして授業にじっくり取り組める。長いスパンで成績がつけられることと長いスパンでだらだらとしているといった両面の意見がある。保護者は成績通知票が2回になっただけで、効果は感じていないという声もある。保護者子どもからはメリットは見えないのではないかと。工夫としては、成績をつける振り返りカードやチャレンジカードなどで、子ども・教師とも振り返りをおこなっている。7月と12月に国語と算数だけ数字を出している学校もある。夏の教育相談を利用して説明している。サマースクールを活用して学習の場を保障している。成績はこれまで、かなりタイトにやってきたが、夏休み期間中に今一度データを見直すことをし、2学期制でよりの確に評価に取り組むことができよかった。小学校は2学期制で困ってなくこのままがよい意見が多い。

（井上）7月に中学校部会があった。入試の問題が出てきてしまい、2学期制については少ししか議論ができず、結論が出ていない。PTAの声としては、夏休みを削ってもいいんじゃないかという声もある。何も3学期制にこだわらず、私立のように、試験をしたら1日休みにするとか、5学期・6学期でもよいのではないかと。小田原の成績の向上と自分の子どもの成績につながれば、形はどんなでもいいという考え方の人も多い。個人的には、息子が夏休み前に評価をもらったが、それがよかった。夏休みの取り組みの指針になる。自分の子どもの相対的な位置がわかったので、予想以上によかった。夏休み前の取り組みがきちんとしていなかったり、保護者に理解されていなかったりしているところに不満があるのではないだろうか。PTAでは、各地域の情報を聞くと、横浜や湘南などは私立の方向が多く、私立に対する危機感があって公教育のあり方で色々な工夫をしていると言う

ことである。そういうような声を小田原でも反映してほしいという声もあった。全体的には3学期制に固執するというよりは2学期制が変えるのではあれば複数学期でもいいのではないかということでした。

(西村) 学校行事のことを考えると、学期制の結論を出すには、早くしないといけない。平成24年からの実施は無理かと思う。

(委員長) 検討することはかなり絞られてきたと思われる。各団体のご意見を伺うと、まとまってきているかと思いますが、中学校教頭会の意見をもう一度聞きたいのだが、それを2学期制でもそれらの意見を包括できればと思う。

(小松委員) 2学期制が変わるときに、白山中学校がモデル校となったときに、職員は変えるとなればいい結果にしたいという思いで学校全体で取り組まれたそう。学校全体の中でも全教職員が賛同してやっているというわけではなく、変えるんだったらよいものに、工夫をしていこうという思いで進め、メリットや課題を出してきた。小学校の方が2学期制のよさを感じている。中学校は進路の問題、成績処理のことも踏まえて、各学校で取り組んできたのだが、微妙な違いが出てきている。これまでの経緯を踏襲しているという面もある。教頭会としては経緯はあるが、職員の様子を見てみると、7月と9月も成績を出している。年4回出すという職員の大変さを感じている。成績を出す回数等の精選などを含めて見直しが必要かとも思っている。教務の先生方が中心になって学校を動かしているが、「2学期制でいい」という声があったともきいて驚いている。一番ひずみを感じていると思っていたが、いずれにせよ、2学期制でいくにしても様々な見直しが必要であるかと思う。課題としては夏休み前の評価。本当の意味で(2学期制の趣旨から踏まえて)出す必要があるのか。

(井上) 夏休み前の成績がないと、夏休みの意味がなくなる。自分の位置を確かめさせることで、動機付けになる。なくすことについては抵抗がある。夏休み前の評価は夏休みを有効にすることができ、ありがたい。

(小林) 小学校の保護者は、抵抗がないのか。

(田中) 受験がないので抵抗を感じていない。面談の時に説明をきちんともらっている。学校で出しているものに取り組んでいる。小学校では、評価自体も○△◎でそれも何となく漠然としている。中学校だと受験を控えているので。

(井上) 学力は教育水準だけではなく、様々な形の力がある。小学校の場合は色々な力を、求める。しかし、中学校になると一気に受験ということになる。先生方は学力は成績だけではないではないか他のもあるのではないかと。言うことであるが、小学校までは、親もいろいろな力を付けようと思っている。このギャップは実際にある。先生に対する要望も小学校の時には、自分の子どもに対する色々な力を見ているが、中学校では、第一にどこの高校にいけるかということが中心になってきてしまうという先生に対する見方が変わってしまうことが現実にある。だから夏休み前の成績についても気になる。

(杉山) アンケートの結果は、校長、教頭を含めた全教職員の意見である。改善点を洗い出して見直していくことが必要だと思っている。少数の意見も踏まえている。不十分な部分の改善する方法も大事である。一部の職員の意見ではなく、全職員のアンケートの結果であり、大事にするべきである。幼小中の連携も踏まえると2学期制を考えていくべき。今の内容をもっと深めていくべきである。子どもたちも変わってきている。社会が充実してきている中、一人ひとりの子どもの目を向けるために、子どもと親と教師がいつも話し合いをしていけるような体制をとるならば、夏休み中の面談、サマースクール等の場を効果的に活用・充実していくことが求められる。成績の数字をただ生徒や保護者にポーンと提示するだけでは、これまでの古い教育に戻ってしまうと考える。

(小林) 昨年の調査をしてそれを集約してきた。先生方の意見を大切にしているわけである。この場が一步前進する場であってほしい。積み上げてきた2学期制のよさを続けていくべきである。先生方は夏休み、サマースクールなどさまざまな努力をしている。中学校では、校長も面接等を行い、進路の方向性を出している。3年生は夏休み中に面談を行っている。今の取り組みをさらに充実させていきたいと思う。

(小松) 小、中で学期が異なるのは望んでいない。小田原市として、同じ学期制、それは教頭会でも一致している。

についてはご意見はないのでは。F校以下での学校では不満もあるのではないかと。市P連に出てきている人は、今の公教育に対して、これでいいのかという思いが強い。塾のこともある。保護者と先生との信頼関係は大事である。人間力も含めて底上げしていかなければならない。受験戦争が現実であり、塾に面倒を見てもらう、という人も増えるのではないかと。それでいいんですかという問いがある。小田原の教育水準を上げてほしいというのが、保護者の願いである。自分の子どもによくなってもらいたいと思うのが親。学校だけで受験がしっかりできれば、塾は必要ない。しかし現実としては塾に行かなくてはならないことも、考えて欲しい。私自身は、2学期制でも複数学期制でもよい。子どもにとってよい環境教育をどうやって作れるか。試験が終わった時期や授業時間以外にもふっと気の抜ける時間も必要ではないかと思う。よりよい勉強ができる環境を作ってあげることが必要である。

(鈴木) サマースクールを時数としてカウントしていると書いてあるが、全員参加が必須。夏休みの中にそれが入ってくるとどうか。今でも時数確保のために、朝の時間などにモジュールを設定している。箱根や真鶴のような形で時数を確保していくのは難しい。できれば今の形(2学期制)をとってほしい。

(委員長) 「よりよい」というものの具体について、今までの取り組み、これからも努力していくといったことを保護者に提示していただければ、保護者の理解を得られるか。

(小松) 「教師の多忙化」は理由にならない。子どもがよくなって、私たちの仕事がある。2学期制で行くとなれば、中学校の半数が大変だと思っているので、何が改善できるのか探っていくことが必要である。

(小林) 基本的に2学期制でというのが、この会の方向性。その上で、各団体で、「よりよい2学期制」について話してきてほしい。今後に向けての方針など調査部会でも案を練って、また検討していく方向でどうだろうか。

(事務局) 調査部会でもう一度話し合いたい。

(杉山) 調査部会で時間を割いて話し合う。意見をまとめることをしていきたい。難しい面を持ちながら、生徒たちは動いている。これがベストという答えは出せないが、よりよいものにしていきたい。

(委員長) その資料が保護者向けにもあればいいと思う。教職員の方にも。その内容が、皆さんと協議していく中で、おかしな点や追加したほうがいい点について、10月にもう一度話し合ったらどうか。

(井上) 前回のアンケートで、見直したらいいといった点について、改善の方向が示せればよいのかと思う。5年間総括しての問題点、解決方法(制度を変えなくてもできる)が示されれば、保護者は納得できるのでは。

(田中) アンケートでは定着している結果が出ている。中学校は先生からの問題提起の方が多く、保護者からはあまりなかったように思う。今の状態が後退すると納得いかないこともあると思うが、2学期制に関しては先生の実務が増えてしまうということが浮き彫りになってしまっている。現状維持、もしくはこれ以上であれば保護者は満足していただける。

(杉山) 評価、評定については、各校で4月にきちっと保護者に説明することが必要。それができてないから、不満が出る。11月の受験の評価は変えられない。だから、2学期制としての評価はどうするか、しっかりと何度も説明をする責任が学校にある。全員の保護者に情報を届ける努力。完全に提示し切れていない為の不信がある。学校評価でも保護者の意見をいただいているが、保護者もまだ理解していただけない面もあるので、保護者からの少数意見もしっかり受け止めていくことが必要である。そこで、小学校を含めて各学校での独自性が出てくる。塾の話もあったが、学校として受験の成績をしっかり出して、それ以外のところはご家庭の取り組みになってくる。最低限必要な項目を今度の提案で出していく必要がある。後は、各責任者の立場で説明してもらう。一番中心は子どもなので、子どもにわかるように説明をしなくてはならない。そしてそれを支えていただく保護者の理解を求める形が今後必要なのかと思う。

2 その他

(井上)

- ・2学期制については、5年ごとに見直していくのか。

(事務局)

・平成18年度の時に、5年後に見直しましょうということ。よりよい2学期制を実施している中で、課題があり、解決できないなあという機運が出てきたら行うが、5年後にきちんとやっていきたいと思います。

(井上)

・環境が変わるということもあるので、2学期制でいいのだが、ただ単に横並びでいくのではなく、本当に小田原の教育として、どういう学期制がいいのか、私立のいいところを受け入れることも必要ではないか。

(小林)

・5年スパンという話もあったが、「教育振興計画」の中に、明確に小田原の教育とはこういうものなんだ、としっかり出してもらって、その中で2学期制についても反映していくことができるのではないか。それを具体化するのが学校である。やってすぐ検討すべきではなかったかなと思う。その都度見直して、5年後に方向性を決めることが必要であったのでは。

(委員長)

・見直しに関して、検討委員の総意も意見として答申に入れてもらいたい。

(事務局)

・「教育振興計画」の中で、方向性を示す。ある程度先を見通した計画を出していきたい。各立場の願いが反映しているものを作り上げていきたい。